

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年9月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】化学工業が大幅に上昇

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数で輸送機械工業等が低下したものの、化学工業、プラスチック製品工業等が上昇した。増収傾向を示すヒアリングも多く聞かれるが、一部企業には、災害による生産体制への影響が見られる。また、原料や燃料の価格高騰分の製品価格転嫁が進まず、利益率の圧迫が懸念される企業も多い。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、消費の縮小や販売先の減少に加え、原料や燃料の価格高騰による収益圧迫の影響から、全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】一部には投資姿勢に慎重な企業も見られる

○設備投資は、ヒアリングにおいて、老朽化に伴う更新、人手不足を補うための合理化や省力化に対して意欲的な企業が多く見られるが、設備投資意欲DIは下降傾向にあり、先行きの不安定な状況により、一部企業には慎重な姿勢も見られる。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調であったものの、百貨店・スーパーや家電大型専門店等の売上は減少に転じた。また、一部の店舗には、災害による営業や仕入れ体制への影響が見られた。

【観光】宿泊客数、観光客数ともに前年同月比を下回った

○観光は、記録的な猛暑など、天候に恵まれなかったほか、日の並びの関係で休日が1日少なかったことにより、前年比で観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、業績好調な企業にとっては資金繰りに問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では収益圧迫等を背景に、依然として厳しい状況にある。また、今後は災害による資金繰りへの影響が懸念される。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足の状態が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、業種を問わず、人手不足が慢性化している。正社員の募集に対しても十分な反応はなく、各社、派遣社員や外国人実習生で対応している状況。